



2017年12月期 本決算説明資料

2018年2月14日
株式会社ツバキ・ナカシマ
(東証一部 6464)



目次

1. 2017年12月期実績 P2
2. 2018年12月期見通し..... P15



「一球一心」

一つの球に一つの誠心、愛情をこめて鋼球を作り上げること。



「一精一誠」

誠は真心であり、精は精密・精神を意味する。仕事に真心を打ち込んで、魂のこもった精密で優れた製品を作り上げること。



1. 2017年12月期実績



2017年12月期サマリー

確固たる既存事業の推進に加え、旧PBC事業部の取得により飛躍的な利益ある成長を開始

外部環境

- ✓ 設備／工作機械関連は大きく成長へ
- ✓ 自動車関連はグローバルでおおむね想定通りに進捗
- ✓ 為替は前期に比べ若干の円安傾向

主要経営活動

- ✓ 戦略的成長戦略を推進し、既存ビジネスの成長を実現
- ✓ 確固たる既存ビジネスの推進に加え、旧PBC事業部買収を実施(統合に向けて順調に進捗)し、飛躍的な利益ある成長軌道へ
- ✓ 株式売出(主要株主の異動)を実施し株主構成の安定化を実現
- ✓ バランスシートマネジメントの強化によりフリーキャッシュフローの確実な創出



2017年12月期決算ハイライト

既存事業における売上成長及び一時費用を除く営業利益増加に加え、旧PBC事業部の連結決算を開始(4.5ヶ月分)

売上面

- 売上収益は過去最高値を更新(前期比44.3%増)

収益面

- 営業利益は旧PBC事業部買収、株式売出等の一時費用を除くと87.5億円と過去最高を更新

キャッシュ面

- 継続的なバランスシートマネジメントの強化により一時支出を除くフリーキャッシュフロー69億円を創出(前期比31.4%増)

配当予想

- 中間配当は31円／株を2017年9月1日に支払
- 期末配当は会社予想通り33円／株を実施予定(年間配当64円)



2017年12月期連結業績

売上収益は前期比42.1%増の532億円と過去最高を達成

営業利益も一時費用及び為替換算影響を除き前期比25.5%増の87.5億円と過去最高を達成

	2016年度	2017年度					(百万円)
	実績	実績 (※2)	一時費用	一時費用 調整後 実績	為替換算 影響	増減額 (※3)	増減比 (※3)
売上収益	36,886	53,244	—	53,244	826	15,532	42.1%
営業利益	6,922	6,985	▲1,768	8,753	65	1,766	25.5%
EBITDA	8,509	9,143	▲1,768	10,911	104	2,298	27.0%
税引前当期利益	6,409	5,992	▲2,129	8,121	139	1,573	24.5%
当期利益(※1,4)	4,632	3,176	▲2,924	6,100	74	1,394	30.1%

(※1) “当期利益”は、“親会社の所有者に帰属する当期利益”を記載しております。

(※2) 2017年8月17日から12月31日までの約4.5ヶ月分旧PBC事業部業績として、売上収益 11,893百万円、営業利益 1,384百万円、EBITDA 1,931百万円、税引前当期利益 1,244百万円、当期利益 901百万円が含まれております。

(※3) “増減額”及び“増減比”は一時費用及び為替換算影響を除いております。

(※4) 当期利益の一時費用には、米国税制改正による一時的課税額997百万円が含まれております。



(ご参考)2017年12月期連結業績(プロフォーマ)

旧PBC事業部YTDを連結したプロフォーマは下記の通り

	2016年度	2017年度					(百万円)
	実績	プロフォーマ (※2)	一時費用	一時費用 調整後 実績	為替換算 影響	増減額 (※3)	増減比 (※3)
売上収益	36,886	72,125	—	72,125	826	34,413	93.3%
営業利益	6,922	8,947	▲1,768	10,715	65	3,728	53.8%
EBITDA	8,509	11,971	▲1,768	13,739	104	5,126	60.2%
税引前当期利益	6,409	7,922	▲2,129	10,051	139	3,503	54.6%
当期利益(※1,4)	4,632	4,561	▲2,924	7,485	74	2,779	60.0%

上記表は、プロフォーマとして2017年1月1日より旧PBC事業部を統合していたとみなした場合の業績試算数値を記載しております。

(※1) “当期利益”は、“親会社の所有者に帰属する当期利益”を記載しております。

(※2) 旧PBC事業部統合前の期間を含む2017年1月1日～12月31日までの旧PBC事業部業績、売上収益 30,773百万円、営業利益 3,346百万円、EBITDA 4,758百万円、税引前当期利益 3,174百万円、当期利益 2,286百万円が含まれております。

(※3) “増減額”及び“増減比”は一時費用及び為替換算影響を除いております。

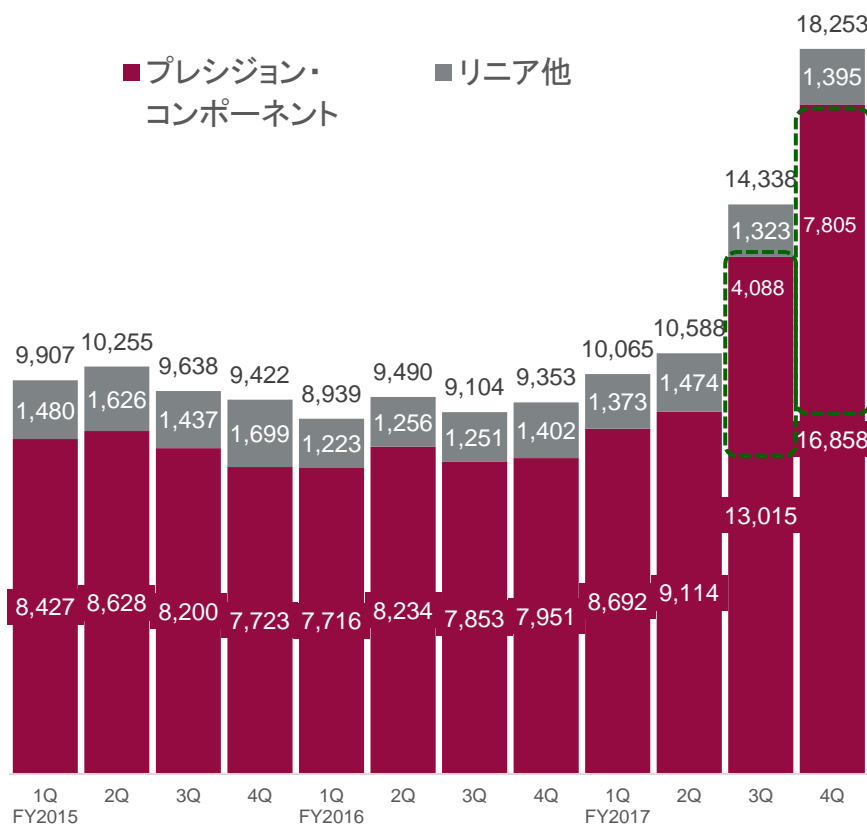
(※4) 当期利益の一時費用には、米国税制改正による一時的課税額997百万円が含まれております。



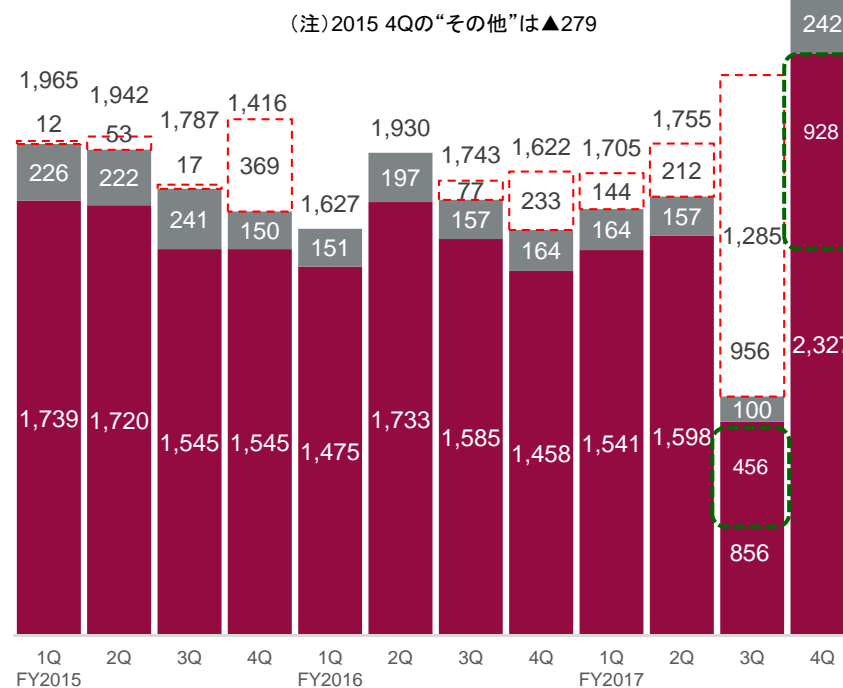
四半期グループ連結業績推移

四半期売上収益、営業利益ともに過去最高値を更新

売上収益推移 (百万円)



営業利益推移 (百万円)



プレジジョン・コンポーネントセグメントの2017年3Qには、旧PBC事業部の8月17日から9月30日までの約1.5ヶ月分として売上収益 4,088百万円、営業利益 456百万円が、2017年4Qには、売上収益 7,805百万円、営業利益 928百万円が含まれております。

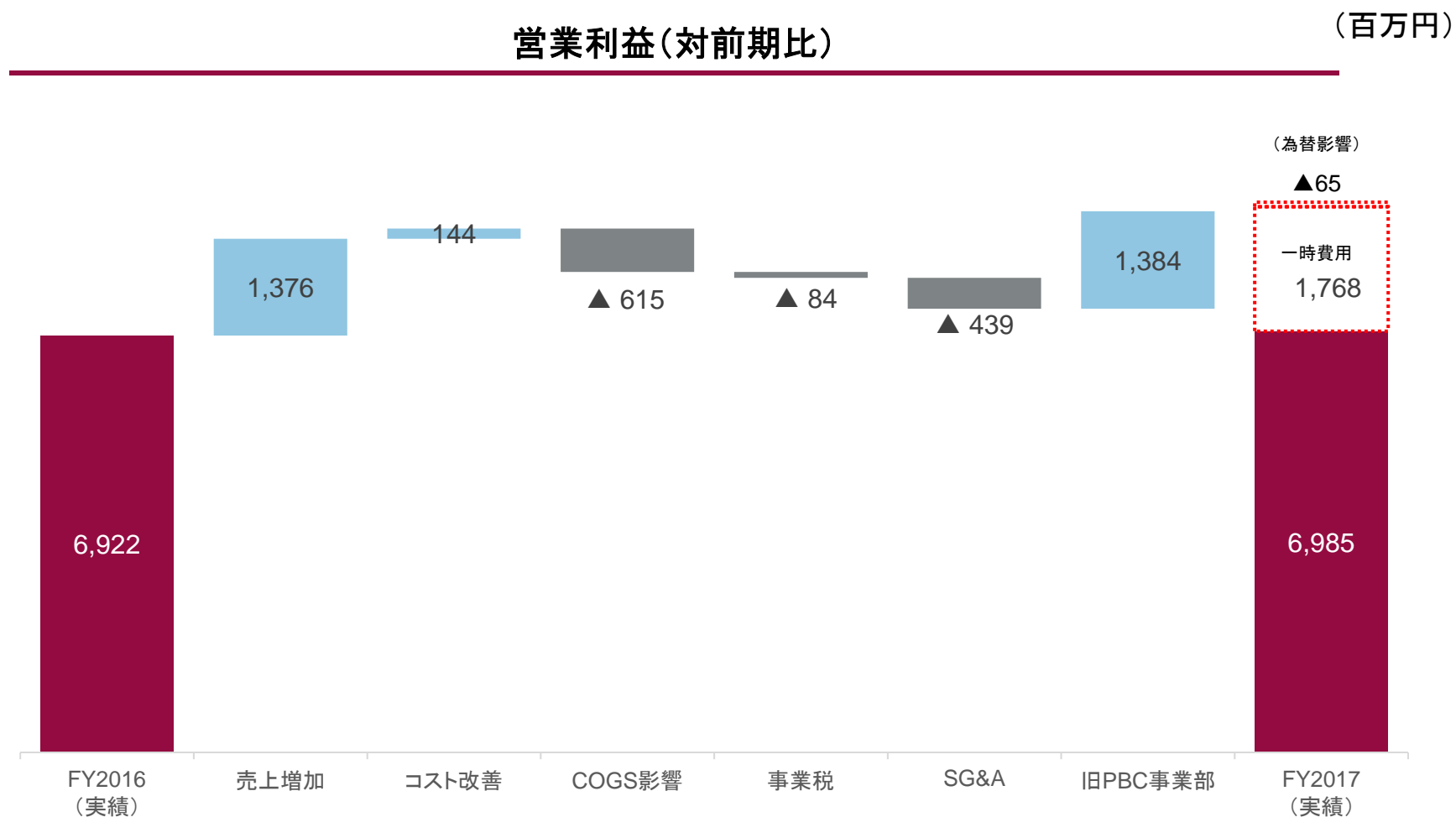
緑点枠は、旧PBC事業部業績を表示

赤点枠は、一時調整費用を表示



2017年12月期営業利益増減要因分析

営業利益は、一時費用及び為替換算影響を除き前期比25.5%増の87.5億円



(※)一時費用として主に“防災関連費用”及び“プロジェクト関連一時費用”を計上しております。

2017年12月期セグメント別売上収益 前期との比較



プレジジョン・コンポーネントセグメントは前期を大きく上回り順調に推移し売上収益の過去最高値更新に貢献

	2016年度	2017年度 (百万円)			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (※1)	増減比 (※1)
グループ連結	36,886	53,244	826	15,532	42.1%
プレジジョン・コンポーネントセグメント	31,754	47,678	753	15,171	47.8%
リニア他セグメント	5,132	5,566	73	361	7.0%

・プレジジョン・コンポーネントセグメントは産業用精密ボール、精密ローラー、精密スタンピング部品等のセグメントです。
 ・旧PBC事業部の2017年8月17日から12月31日までの売上収益 11,893百万円はプレジジョン・コンポーネントセグメントに含まれております。
 (※1) “増減額”及び“増減比”は為替換算影響を除いております。

2017年12月期地域別売上収益 (プレジジョン・コンポーネントセグメントのみ) 前期との比較



プレジジョン・コンポーネントセグメントにおける地域別売上収益においては既存ビジネスの成長に加え、旧PBC事業部の買収効果により、欧州、北米、アジアで大幅に成長

	2016年度	2017年度			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (※1)	増減比 (※1)
日本	12,367	13,107	—	740	6.0%
北米	5,409	9,025	187	3,429	63.4%
欧州	5,818	14,163	208	8,137	139.9%
アジア	8,160	11,383	358	2,865	35.1%

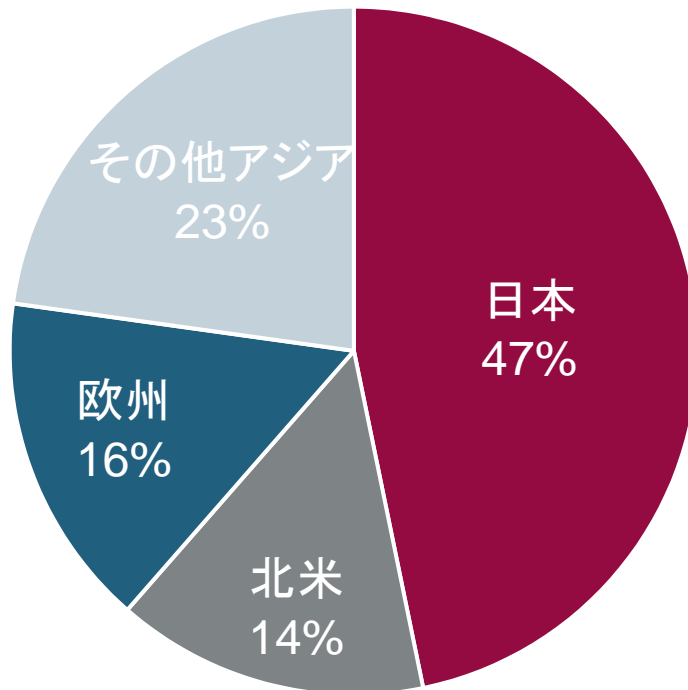
旧PBC事業部の2017年8月17日から12月31日までの売上収益が北米 2,970百万円、欧州 7,333百万円及びアジア 1,590百万円含まれております。
(※1) “増減額”及び“増減比”は為替換算影響を除いております。

地域売上構成変化(2016年度→現在(プロフォーマベース))

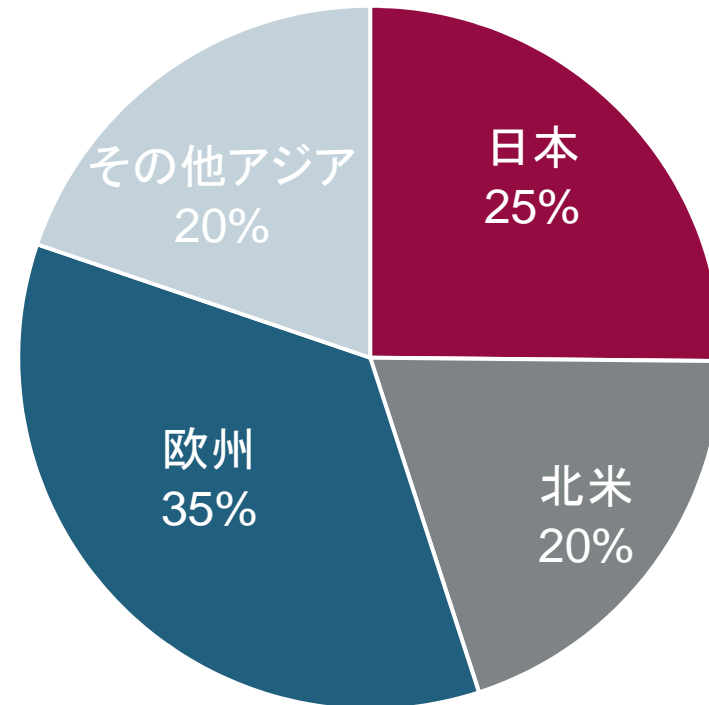


旧PBC事業部買収により、グローバルでバランスのとれた地域売上構成を達成

2016年12月期



2017年12月期
プロフォーマ



(ご参考) 2017年12月期地域別売上収益 前期との比較



	2016年度	2017年度 (百万円)			
	実績	実績	為替換算 影響	増減額 (※1)	増減比 (※1)
日本	17,252	18,129	—	877	5.1%
北米	5,409	9,025	187	3,429	63.4%
欧州	5,818	14,163	208	8,137	139.9%
アジア	8,407	11,927	431	3,089	36.7%

旧PBC事業部の2017年8月17日から12月31日までの売上収益として北米に 2,970百万円、欧州に 7,333百万円及びアジアに 1,590百万円含まれております。

(※1) “増減額”及び“増減比”は為替換算影響を除いております。



BS／CFにおける業績

バランスシートの適正なコントロールを継続し、一時支出調整後のフリーキャッシュフローは前期比31.4%増

棚卸資産回転月数(月) (※1)

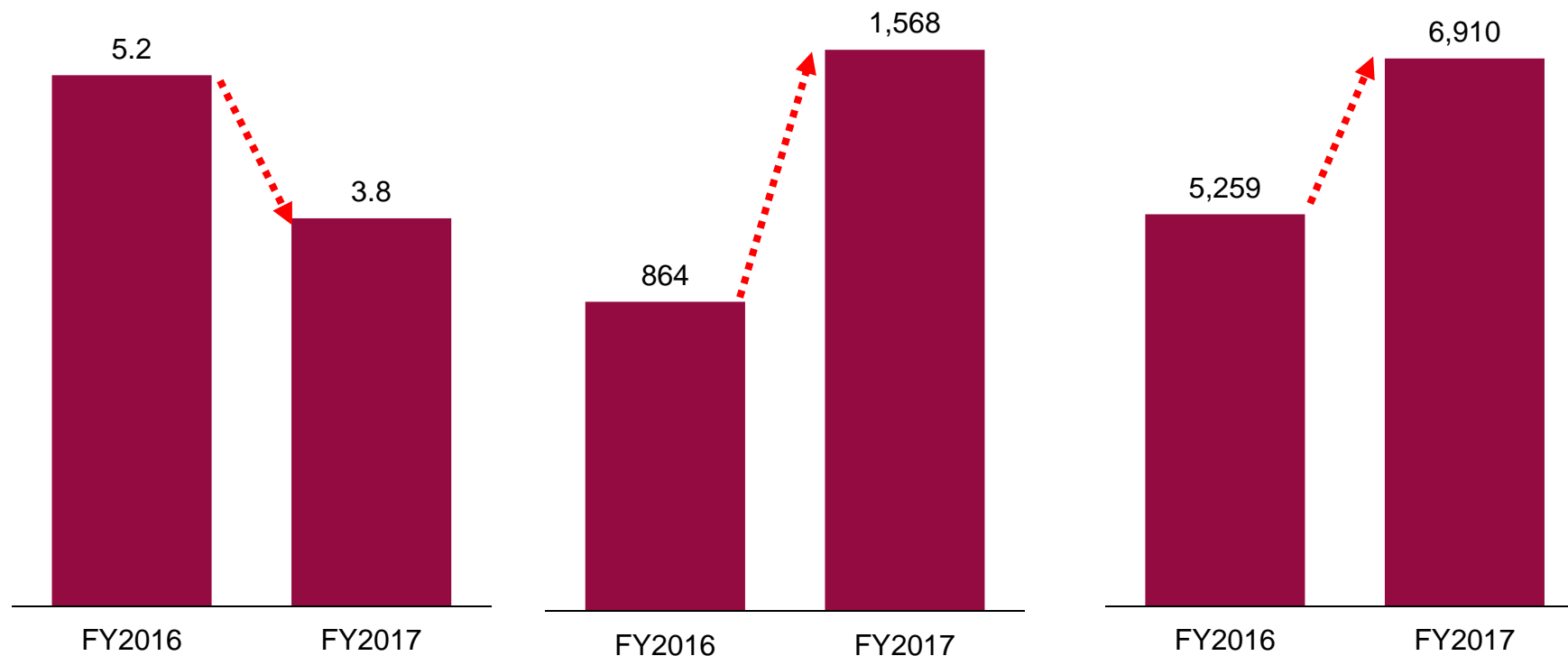
設備投資額(百万円) (※2)

調整後FCF(百万円) (※3)

■ 回転率の良い旧PBC事業部取得により、前期末実績を大きく下回る

■ 適正にコントロール

■ フリーキャッシュフロー増加



(※1) 旧PBC事業部の売上収益は4.5ヶ月分として加重平均により算出

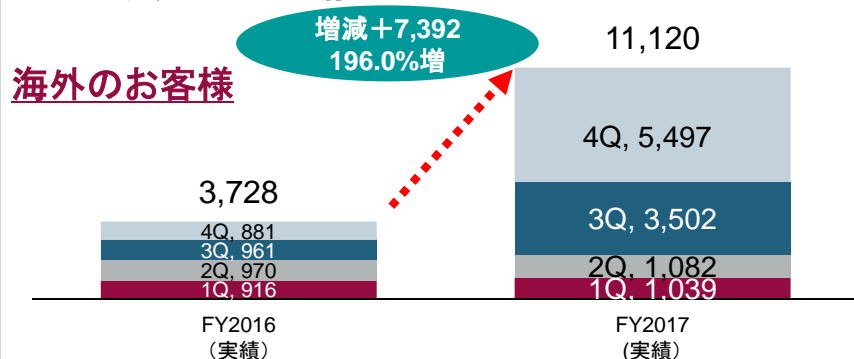
(※2) 旧PBC事業部の設備投資 263百万円(4.5ヶ月分)を含みます。

(※3) 調整後FCFは、旧PBC事業部取得に伴う 44,053百万円及び一時支出等 1,560百万円を除いて表示しております。

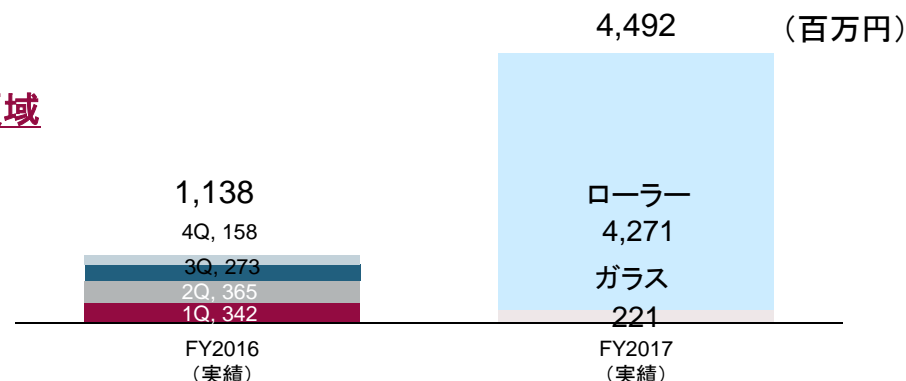


2017年12月期 4(既存)+2(新規)の販売戦略進捗

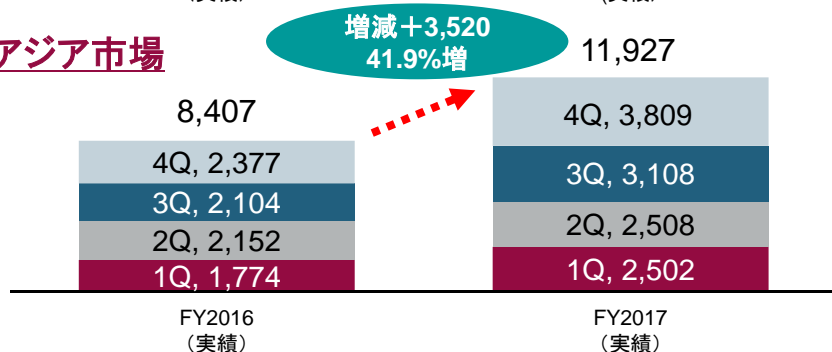
現在の販売戦略イニシアティブの進捗は、既存ビジネスでの成長に加え旧PBC事業部の買収効果により、大きく進捗



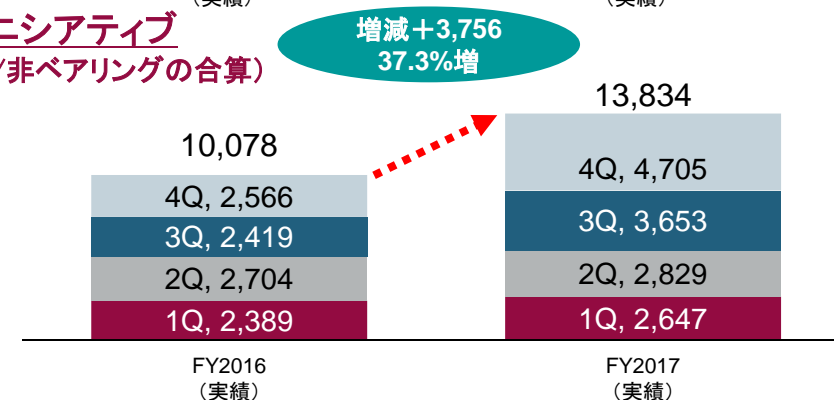
新領域



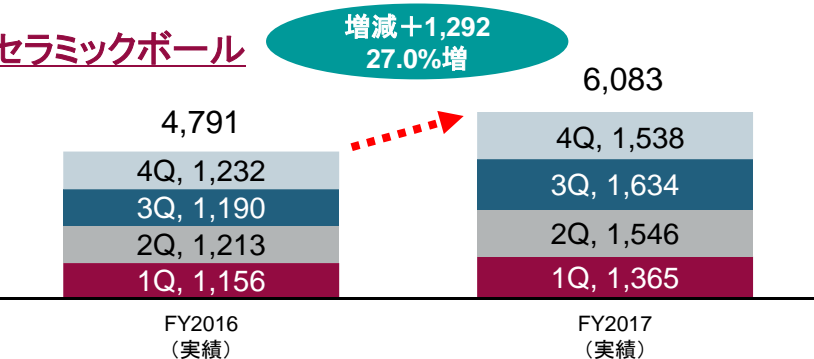
アジア市場



新イニシアティブ (日系/非ペアリングの合算)



セラミックボール



※上記グラフには下記の旧PBC事業部売上収益を含みます。

旧PBC事業部	2017 3Q (1.5か月)	2017 4Q
海外のお客様	2,376	4,456
アジア市場	562	1,028
新領域(ローラー)	1,468	2,803
新イニシアティブ	766	1,680



2. 2018年12月期見通し



2018年の事業環境及び経営方針

旧PBC事業部とのOne Management/One Operationの実現により、飛躍した新生ツバキ・ナカシマの“さらなる利益ある成長”を開始

2018年マクロ経済の見通し

- ✓ 堅調な米国経済、中国の産業政策によりグローバル経済は堅調に推移し、現状の高い水準の受注も継続。
- ✓ 為替は米国・欧州での緩やかな利上げと緊縮により昨年レベルの円安水準を見込む。

2018年の経営方針

- ✓ 売上収益 750億円(対前年40.9%増)、営業利益 115億円(同 64.6%増)、一株当たり年間配当79円(同 23.4%増)を目指す。
- ✓ 新生ツバキ・ナカシマの新中期戦略(3月中旬発表予定)に基づき、さらなる利益ある成長を実現するための事業活動を開始。
- ✓ シナジー実行活動を通じ、成長、総合競争力(QCDS)とグローバル経営コントロールの3つの領域での飛躍を開始。



2018年12月期業績見通し

(百万円)	FY2017	FY2018	
	実績	見通し	前年比
売上収益	53,244	75,000	40.9%
営業利益	6,985	11,500	64.6%
EBITDA	9,143	15,100	65.2%
税引前当期利益	5,992	10,600	76.9%
当期利益	3,176	7,790	145.3%
基本的1株当たり当期利益(円)	80.18	195.88	144.3%
一株当たり配当(円) ※見通し	64	79	23.4%

“当期利益”は、“親会社の所有者に帰属する当期利益”を記載しております。

- 業績予想の為替レートは、1ドル112.00円、1ユーロ132.00円、1人民元16.60円を想定
(2017年実績 1ドル112.19円、1ユーロ126.67円、1人民元16.63円)

免責事項



本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります。当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載(推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます)が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。